

令和4年度事業報告書

県内畜産農家の経営の安定に寄与し、本県の畜産振興を図るとともに、畜産や牧場景観を広く一般県民等に理解してもらうため、県立八ヶ岳牧場及びまきば公園の指定管理者として、基本協定書に基づき両施設の事業目的を達成するために取組んだ当協会の事業実績は次のとおりである。

1) 八ヶ岳牧場管理受託業務

(1) 県有肉用繁殖牛の飼養、生産子牛の育成及び売却業務

県有肉用繁殖牛191頭を本場で繫養し、系統毎に選抜された優良な繁殖牛に対して計画交配を行い、これら母牛から産まれた優良子牛を育成し、県内の肉用牛振興地域の農協等へ繁殖又は肥育素牛として146頭を売却した。また、雌の一部を牧場に保留し繁殖牛の更新を図るとともに、繫養計画から除外した繁殖牛は、山梨食肉流通センターへ廃用出荷を行なった。

一方、令和元年にヨーネ病の患畜が確認されたことに伴い、清浄化農場への復帰を目指して県有牛全頭を対象に年一回ヨーネ病の定期検査を実施するほか、分娩した母牛並びに生産子牛については2週間以内に、また、売却予定の育成牛は売却前にそれぞれPCR検査(直腸内のヨーネ菌遺伝子検査)を実施し、保菌牛の早期発見・淘汰並びに牛舎消毒等蔓延防止対策を継続して行った結果、令和5年3月に清浄化(カテゴリーI農場に復帰)した。

[表1] 県有牛の飼養状況

区分 性別	動物(成牛)頭数(頭)									生産物(子牛・育成牛)頭数(頭)									合計	
	前年度より	生産物区分替	導入	廃用	出荷指示	売却	保管転換	死亡	自主淘汰	小計	前年度より	出生	動物へ区分替	売却	廃用	保管転換	死亡	自主淘汰		小計
雌	197	33		-30	-6			-1	-2	191	87	88	-33	-41			-2	-1	98	295
雄																				
去勢										69	96		-105	-1			-3		56	56
計	197	33		-30	-6			-1	-2	191	156	184	-33	-146	-1		-5	-1	154	345

売却頭数は、元年度にヨーネ病が確認され患畜の処分や同居牛の自主淘汰の影響により減少していたが、3年度には増加し、4年度は146頭で前年度とほぼ同数であった。売却先は、肉用牛生産が盛んなJA梨北が約7割を占め、ヨーネ病の清浄化農場となるまでは、妊娠牛の売却も控えていたことから、繁殖素牛の需要が多い農協への売却割合は少なかった。

[表2] 農協別売却頭数

(頭)

農協別売却頭数														
区分	梨北							笛吹		南アルプス市		山梨みらい	山梨県酪	合計
	小淵沢	高根	清里	穂坂	白州	明野	葦崎	八代	笛南	野々瀬	南湖			
去勢牛		9	15	12	5	2	28	14	6			14		105
育成雌牛			5	5	5	4	13	6	1			2		41
育成妊娠														
経産妊娠														
計		9	20	17	10	6	41	20	7			16		146

(2) 農家家畜受託状況

夏期受託家畜は、天女山分場を中心に放牧管理(5/1～10/31)を、冬期受託家畜は、本場牛舎で飼養管理(11/1～4/30)を行い、農家等が保有する乳用牛、肉用牛の受託管理の状況は〔表3〕、〔表4〕のとおりで、本年度の牧場利用頭数は実頭数・延頭数ともに過去最高を記録した昨年度をさらに上回り、実頭数は対前年比111%、延頭数は対前年比107%となった。

前年度に引き続き、冬期受託牛については県有牛との飼養管理エリアをゾーニングによる衛生管理を行い、また、継続して預託されている牛は翌年度への繰り越し処理を行った。

また、受託期間中農家の希望に沿って、種付け月齢に到達した牛に人工授精及び受精卵移植による種付けを行い、〔表5〕のとおりそのほとんどが受胎(妊娠)した。不受胎牛の多くは繁殖不良として入牧してきた牛や高齢牛、子宮・頸管の構造に異常が見られた牛であった。

[表3] 農家家畜受託状況

(頭)

		受託頭数			
		乳用牛	肉用牛	馬	合計
前年度より継続		199	108	0	307
本年度	入牧頭数	218	265	0	483
	退牧頭数	209	275	0	484
	死亡頭数	1	1	0	2
合計		207	97	0	304

[表4] 受託家畜の実頭数及び延べ頭数

(頭)

区分	乳用牛	肉用牛	馬	合計
受託実頭数	417	373	0	790
受託延頭数	91,757	52,866	0	144,623

[表5] 受託家畜の種付状況(AI:人工授精 ET:受精卵移植) (頭)

	種付頭数	AI 受胎頭数	ET 受胎頭数	合計受胎頭数	妊娠率
乳用牛	211	175	33	208	98.6%
肉用牛	202	178	12	190	94.1%
合計	413	353	45	398	96.4%

(3) 牧草地等の維持管理業務

本場並びに分場の牧草地に対し、[表6]のとおり計画的に肥料散布を行い良質な牧草を生産するとともに、冬期用貯蔵飼料(サイレージ)の生産状況は[表7]のとおりである。

貯蔵粗飼料のロールサイレージの生産量は、春先の低温に影響されず通常通り行えた。ただ、梅雨や長雨等の異常気象の影響により刈遅れが発生し、目標の刈り取り面積に達することは出来なかったものの、1,984ロール(前年対比119%)であった。なお、乾草も生産する予定だったものの、降雨の影響を受けサイレージのみとなった。

また、牧草地内の播種、雑草の防除や牧道の補修整備をはじめ、場内の保安林の間伐や倒木の撤去並びに車両・農機具等の点検整備と修理を随時行い、草地並びに車両・農機具等の保全管理に努めた。

[表6] 肥料散布状況

肥料散布面積と施肥量				
区分	放牧地	採草地	合計	
散布面積	249.8 ha	76.7 ha	326.5 ha	
施肥量	牧草地用複合肥料	56.4 t	133.5 t	189.9 t
	粒状炭酸苦土石灰	49.2 t	45.3 t	94.5 t
	計	105.6 t	178.8 t	284.4 t

[表7] 牧草生産状況 (t)

牧草生産量(生草換算)					
区分	放牧地	採草地			合計
		サイレージ用	乾草用	計	
生産量	5,516	2,976		2,976	8,492

(4) 農家の巡回調査指導業務

八ヶ岳牧場への預託牛飼養農家及び当牧場からの売却牛飼養農家等の巡回調査を実施し、発育や繁殖状況等について調査し、飼養・繁殖管理技術に係る指導を行った。

[表8] 農協別農家巡回状況 (戸)

区分	梨北農協	県酪農協	笛吹農協	クレイン	山梨みらい	南アルプス	合計
戸数	乳牛	11	1		11		23
	肉牛	14		4	3	1	3
合計	25	1	4	14	1	3	48

(5) 受精卵移植普及定着化業務

協会では、畜産酪農技術センター(受精卵供給メインセンター)に協力して、当場で繫養管理している優良雌牛(24頭)に過剰排卵処理(ホルモン投与)を行い供卵牛として提供するほか、受託管理している農家預託牛に受精卵移植を行なうなど、サブセンターとしての役割を果たした。

(6) 家畜糞尿堆肥化処理業務

家畜糞尿処理施設において、牧場内や県馬術競技場並びに北杜市小淵沢町内の畜産農家及び乗馬クラブから排出される家畜糞尿の堆肥化処理〔表9〕を行い、生産した牧場の堆肥製品については、峡北地域の野菜農家を始め、峡東、峡中地域の果樹農家等に販売を行なった。また、放牧地および採草地への堆肥散布も行った。

〔表9〕家畜糞尿堆肥の生産状況 (m³)

家畜糞尿搬入量と製品堆肥搬出量				
区分	八ヶ岳牧場	馬事振興センター	小淵沢町流通組合	合計
糞尿搬入量	4,663	844	2,792	8,299
堆肥生産量	2,230	442	1,312	3,984
堆肥搬出量	1,688	354	2,271	4,313
販売量	1,232			
圃場使用量	456			

(7) その他の業務

ア. 職員研修等

協会職員の資質の向上を図るため、コロナ禍で中止された研修もある中、リモートも含め、実施された専門技術研修や作業機械免許等取得講習会等に延べ10名が参加した。〔表10〕

〔表10〕 研修内容

	研修期間	日数	研修名	研修内容	人数	研修機関
1	7月1~8日	6日	農業機械研修	トラクター単体	1人	山梨県立農林大学校
2	9月6~8日	3日	中央畜産研修	新任畜産技術職員	1人	(独)家畜改良センター
3	11月15~17日	3日	地方審査委員認定講習	登記検査委員認定講習会	2人	全国和牛登録協会
4	11月10~11日	2日	防火管理防災管理講習	甲種防火管理新規講習	1人	峡北消防本部
5	2月15~17日	3日	建設機械作業研修	玉掛け技能講習会	1人	PEP 建機教習センター
6	2月21日	半日	動物取扱責任者研修	動物愛護及び管理等法令	2人	WEB(山梨県中北保健所)
7	3月1~2日	2日	防火管理防災管理講習	甲種防火管理新規講習	2人	日本防火・防災協会

イ. 黒毛和種基本登録業務等

八ヶ岳牧場に預託されている預託牛や牧場に繫養している県有牛、並びに県内農家で飼養されている黒毛和種肉用繁殖雌牛の和牛基本登録を行なうため、登録審査員資格を有する職員を派遣し100頭の登録を行なった。

また、山梨食肉流通センターで開催された県、J A並びに食肉流通センター主催の肉用牛枝肉共進会の枝肉審査員に職員を派遣した。

2) まきば公園管理受託業務

(1) まきば公園の利用状況

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の行動制限が緩和されたことで、観光バスや学校関係の自然教室なども増加し、来園者数は対前年度比142%となったが、目標(24万人)に対しては73%に留まった。山梨グリーンゾーン認証施設として、開園期間中は公園や資料展示室の出入り口に消毒液を設置するとともに、マスクの着用や三密防止対策を取る等感染拡大防止に努めた(4月20日開園、11月10日閉園)。[表11]

また、展示室や園内の案内看板のリニューアルや放送設備等を新調するなどした。

[表11] 月別入園者数の状況

(人・台・団体)

月	開園日数	推定入園車両数	推定入園者数	車両／日	入園者／日	予約団体数
4月	10	2,710	6,770	271	677	7
5月	27	12,060	31,390	447	1,163	16
6月	26	5,650	17,900	217	688	68
7月	28	9,220	25,380	329	906	34
8月	30	15,870	40,530	529	1,351	24
9月	26	7,170	19,270	276	741	55
10月	26	9,760	26,180	375	1,007	52
11月	9	2,850	7,490	317	832	19
合計・平均	182	65,290	174,910	359/日	961/日	275

(2) 県有めん羊の増殖業務

まきば公園内の動物ふれあい施設において、サフォーク種の飼養管理を行うとともに、子羊32頭を生産し、県内農家等に26頭を売却した。

[表12] 県有緬羊の飼養状況

(頭)

区分 性別	動物(成めん羊)頭数						生産物(子・育成めん羊)頭数						合計
	前年度より	生産物区分から替	売却	廃用	死亡	計	生産	動物へ区分替	売却	廃用	死亡	計	
雌	37	18	13		4	38	20	18			2	0	38
雄	15	10	13		0	12	12	10			2	0	12
計	52	28	26		4	50	32	28			4	0	50

(3) 畜産に関するイベントの開催実績

新型コロナウイルスの感染拡大防止措置として、計画していたフェルト教室、毛刈り体験、山菜教室、まきばウォークは中止した。県の協力要請が緩和されたことにより、10月のきのこ教室を開催した。

フェルト教室	(開催回数: 0回 参加人数 0名)
めん羊毛刈り体験実習	(開催回数: 0回 参加人数 0名)
自然観察会(山菜・きのこ教室)	(開催回数: 1回 参加人数 14名)
まきばウォーク	(開催回数: 0回 参加人数 0名)

3) 死亡牛焼却委託業務

県西部家畜保健衛生所からの業務委託契約に基づき、農家で死亡した月齢96ヶ月齢以上のBSE検査対象牛の保管・焼却並びに焼却施設の保守管理を行った[表13]。また、今年度は焼却施設の扉等の大幅な修繕を行った。

[表13] 月別死亡牛の焼却頭数

(頭)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
焼却頭数	0	1	0	1	0	2	0	2	0	1	1	0	8

3. 附属明細書(事業報告関係)

令和4年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。